

African Kids Club Japan

2011～2012 年度 活動報告書

アフリカンキッズクラブ

～大きい子も、小さい子も、ちょっとずつアフリカン～

2012 年度（公益財団法人）大阪コミュニティ財団 柏岡精三記念基金 助成事業

（特定非営利活動法人）アフリカ日本協議会 アフリカンキッズクラブ運営メンバー



—目次—

1. アフリカンキッズクラブ（発足の経緯、在日アフリカ人の統計的現状、活動の方向性の変化）
2. 2011～12 年度の活動を振り返って
3. キッズ向けイベント&在日アフリカ人家族の生活を考える会 報告
4. その他の活動
5. 2013 年度の方向性

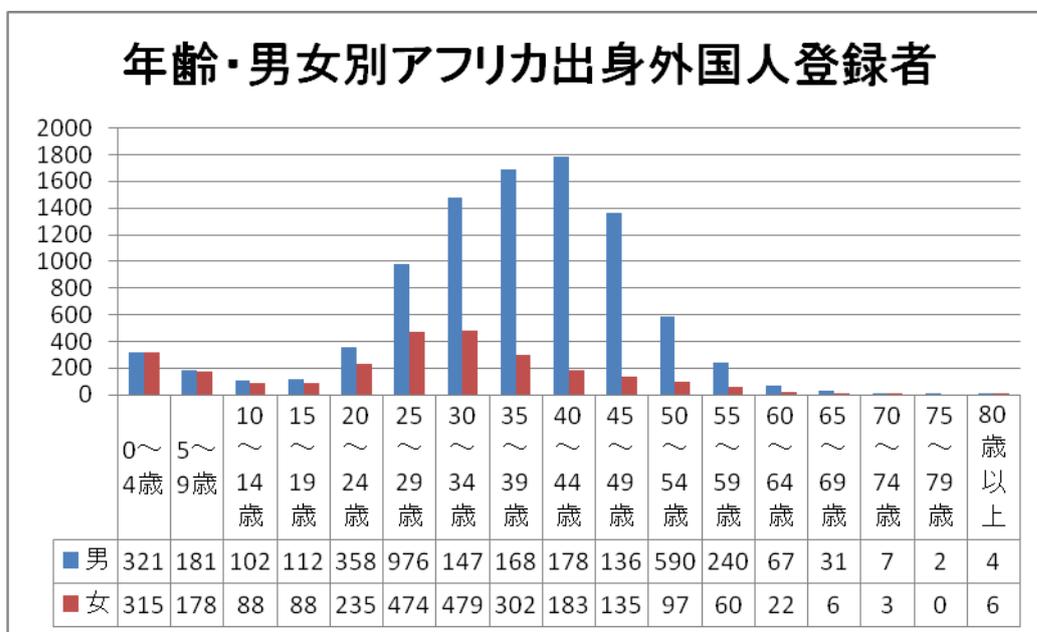
1. アフリカンキッズクラブ

a) 発足の経緯

2005年に、アフリカ日本協議会（以下 AJF）理事で、アフリカンキッズ¹のお母さんでもある人から、アフリカ出身者のいる家庭のキッズが集まって遊び、彼らのルーツ・アフリカを感じるイベントを開催してはどうかという提案があった。2006年以降、毎年3カ月に1度の頻度でイベントを開催している。近年は、国際結婚家庭以外にも、アフリカに興味のある日本人だけの家族やアフロ系アメリカ出身者のいる家族なども参加している。

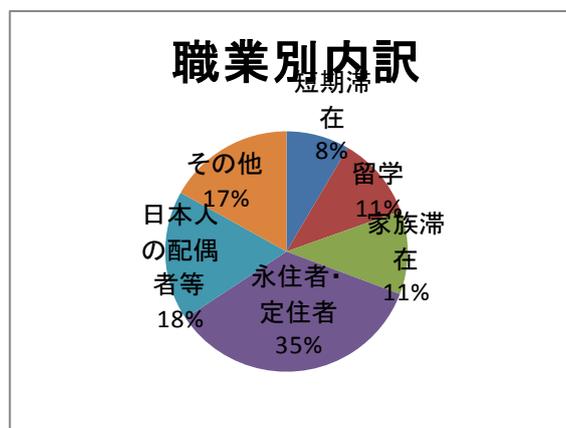
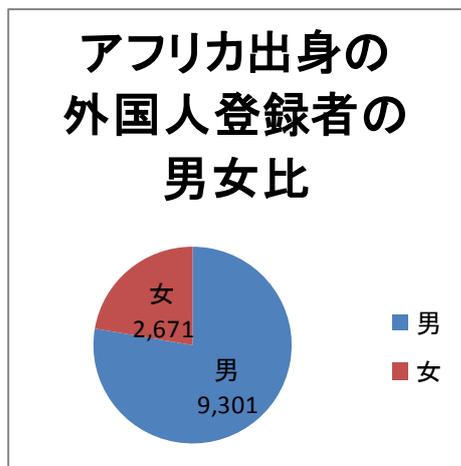
b) 在日アフリカ出身者の統計的現状

法務省が発表した2011年版『世界の統計』では、日本に滞在するアフリカ出身の外国人登録者数は11972人と報告されている。これは外国人登録者数の約0.5%に相当し、ここ数年その割合に格段大きな変化は見られない。中短期の入国者数の延べ数は、2000年ごろから20000人を超え、観光やビジネスなどを含めたアフリカ—日本間の行き来が一層活発になっているようだ。2011年におけるアフリカ出身の外国人登録者数の男女比は、男性9301人に対して女性2671人と約3倍もの差があり（グラフ2）、30代～40代の働き盛りの男性のアフリカ出身外国人登録者が多いことがうかがえる（グラフ1）。職業別内訳からは、留学や就学、就労などリターンを念頭に置いた来訪者よりも在留者の割合が大きいことがわかる（グラフ3）。また、永住者は3691人、永住者の配偶者等が174人となっており、日本人の配偶者がいるのは2092人という。



グラフ1（出典：登録外国人統計表 国籍（出身地）別年齢・男女別外国人登録者）

¹ 創立当初の文章から引用。ここではアフリカの国出身者がいる家庭の子どもを指す。



左：グラフ2（出典：登録外国人統計表 国籍（出身地）別年齢・男女別外国人登録者）

右：グラフ3（出典：登録外国人統計表 国籍（出身地）別在留資格（在留目的）別外国人登録者）

c) 活動の方向性の変化

発足時はキッズも幼稚園～小学校低学年が多く、大人が用意したものを楽しんでもらう企画が多かった。最近では、当初から参加しているキッズも小学校高学年に入り、新規で参加者が入るなど、年齢に幅が出てきたことで、年少と年長のキッズが同時に楽しめる企画出しに工夫が求められるようになった。また、スタッフやサポーターが一方向的に用意した企画ではなく、キッズの主体性を活かし、年長がリーダーとなってクラブを引っ張っていけるような企画、また保護者も可能な範囲で役割を担えるような企画にしていくなさとの声が多い。

2) 2011～12年度の活動を振り返って

評価できる点には、▽ダンスや太鼓以外に新しい企画を実施できた▽継続的な参加者が増えた▽AJFの他事業へアウトリーチできたことが挙げられる。設立当初から要望が多かったお泊まり会は小規模ながらも様々な企画を盛り込み、キッズの満足度も高かった。アウトリーチでは、2011年発行のAJF会報『アフリカNOW』94号・東日本大震災特集では、在日アフリカ人家族の生活を考える会で開いた座談会の記録を盛り込んだ。2012年末のAJF年末交流会には3家庭が参加し、キッズクラブの存在を視覚的にPRできた。

一方で、施設確保の難しさや準備の人手不足・役割分担の改善が指摘された。企画の大枠決定が遅れば、会場の確保が難しくなる。例えば、お泊まり会で使用するキャンプ場は3か月以上前には年間計画を早期に決定する学校関係者の予約で埋まる可能性が高い。イベントで使用する地域センターは、開催の2～3か月前に行われる予約抽選会に参加するが、取れるか取れないか運次第であり、キッズクラブのような「登録団体」より先に「優先登録団体」が同じ施設を希望していれば確保できなくなる。人手不足の点では、保護者の運営メンバーが減ったこと、サポーターがイベント単発であった。

3) キッズ向けイベント&在日アフリカ人家族の生活を考える会 報告

a) キッズ向けイベント

	タイトル	実施月
1	アフリカって、どんなところ？ ～親子で参加！話してみよう！わたしのアフリカ・あなたのアフリカ～	2006. 1
2	アフリカの動物を探そう！ in 上野動物園	2006. 2
3	ピクニック in 日比谷公園	2006. 6
4	ドンドコドン！みんなで踊ろうアフリカダンス！～アフリカドラムにのせて～	2006. 8
5	みんなで楽しむアフリカ・ガーナのわらべ歌	2006. 12
6	まるかじりサロン～みんなでアフリカの文化に触れてみよう～	2007. 4
7	親子で楽しむ、自由で楽しいアフリカお絵かき教室	2007. 8
8	親子でアフリカの文化を楽しもう～コンゴ民主共和国編～	2007. 12
9	親子でアフリカの文化を楽しもう～マリ共和国編～	2008. 3
10	親子でアフリカの文化を楽しもう～ガーナ共和後編～	2008. 6
11	ニヤマ・カンテさんと楽しもう！西アフリカの歌とダンス	2008. 11
12	親子で行こう！ナイジェリア丸ごと体験学校	2009. 2
13	夏休みのイベントだよ！～ワンデー・サマースクール～	2009. 8
14	親子でアフリカの文化を楽しもう～コンゴ民主共和国編～	2009. 11
15	おしゃれなアフリカに触れよう！アフリカの服、アート、食べ物	2010. 2
16	キッズのためのミニ音楽会 ジンバブエの楽器ムビラを聴いてみよう！	2010. 7
17	サッカー・ワールドカップが開かれた国、南アフリカってどんな国？（拓大）	2010. 11
18	たのしいアフリカに触れよう！日本とアフリカの遊びを一緒に	
19	セネガルの太鼓サパールにあわせて踊ってみよう！	2011. 8
20	アフリカ1周!? クイズに答えてアフリカを旅しちゃおう!?（拓大）	2011. 11
21	ガーナ&アフリカこどものあそび教室：アフリカンハートであたたかな冬の日	2012. 2
22	タンザニアの現代アート・ティンガティンガ風のぬりえで暑中おみまいをつくろう！教室	2012. 8
23	AKC 初めての泊まり会～キッズクラブのお友達と「おやすみ」～	2012. 8
24	寒さなんか吹き飛ばせ！ アフリカ風日本の遊びと西アフリカ大ビンゴ大会（拓大）	2012. 12
25	上野でちょこっとバレンタイン～チョコレート博士になろう～	2013. 2

★2010年度以前の報告書は、AJF ウェブサイト及び以下 URL からご覧いただけます。

●2009-10年度報告書：http://www.ajf.gr.jp/lang_ja/activities/akc2009-2010.pdf

第19回 セネガルの太鼓サバルにあわせて踊ってみよう！

日時：2011年8月28日（日）

場所：JICA地球ひろば 講堂

アフリカの音楽といえば太鼓のリズム。広いアフリカには、様々なタイプの太鼓がある。今回は、セネガルのウォロフの人々がサバルという太鼓を披露し、キッズ達はそのリズムに合わせたダンスを体験した。



サバルのワークショップを各地で行っている在日セネガル人プレーヤーの指導を受け、実際にサバルを叩き、踊った。サバルと人々の生活に関するクイズも、セネガルに親しむ機会になった。



おやつにはタマリンドやバオバブ、ハイビスカスのフルーツジュースを堪能！ビニール袋で売られるのは現地スタイル。袋の端をえいと歯で噛みちぎって、ちゅーちゅー吸って飲む。大人もキッズも初体験？飲みにくいと言いながらも、初めての味に病みつきになる人も。バナナチップスも好評だった。

キッズクラブのお母さん（当日は講師）の声

キッズ達は、普段とは違う動きに戸惑いつつ、見よう見まねで踊りを楽しんでいた様子。わが子はサバルを見るのも踊るのも慣れており、抵抗なくやれました。体を動かすのが好きなので「ダンスはまたやりた〜い」と。イベントの経験を夏休みの社会の宿題に「セネガルについて」太鼓とダンスの役目を書き、自分の経験も入れながら発表できたと高評価でした。

第20回 アフリカ1周！？クイズに答えてアフリカを旅しちゃおう！？

(拓殖大学アフリカ研究愛好会企画)

日 時：2011年11月23日（水、勤労感謝の日）

場 所：JICA 地球ひろば 講堂

最初に椅子取りゲーム！司会進行のアフ研メンバーが椅子の周りに集まるよう呼びかけましたが、キッズはあっちへ行ったりこっちへ行ったり、追いかける学生の方がへろへろに疲れてしまう…。



お母さん方が呼びかけると、やっとキッズが椅子の周りに集まり、中には一緒にゲームに参加して下さったお母さんもいて、そのおかげかキッズ達も自然に参加できた。椅子に座れなくて泣き出す子や、初参加で緊張ぎみなのか、隅で座ったままのキッズもおり、アフ研メンバー含むサポーターやお母さんが気がついて、話し相手になっていた。

最後まで勝ち残った最年長の女の子には、アフ研よりお菓子が詰まったささやかな景品をプレゼント。小さい子には少し不利なゲームだった、負けたキッズにも景品を用意したほうがよかった、という反省点はあったものの、走り回っているキッズ達自身は楽しそうな様子だった。その後、年齢別に用意した輪投げやお絵かきなどのコーナーは、結局は大きい子も小さい子もまざってやっていた。保護者向けにアフ研メンバーによるアフリカ講座も行われ、衣食住からビジネスまで幅広くお話があり、普段育児や仕事に忙しいお母さん達にとっては「なるほど」と思える話もあったようだった。



最後はアフ研で用意した動物クッキー（南アフリカの紅茶葉入り&ケニアのコーヒー味）でおやつタイムです。キッズ達は「おいしい」と言葉にはしないものの、次から次へと平らげてしまったとき。

第 21 回 ガーナ&アフリカ・こどものあそび教室：アフリカンハートであたたかな冬の日

日 時：2012 年 2 月 5 日（日）

場 所：JICA 地球ひろば 講堂

アフリカンキッズクラブのお母さん・遠藤晶子さんを講師に迎えて、2011 年夏のガーナに滞在して取材してきた、ガーナの遊びや教育・生活情報等紹介した。



最初に、ガーナの遊び「バンテマ・アクラクロ Bantama Akrakro（石渡しゲーム）」＝写真左上。「バンテマ（Bantama）」とは、ガーナ中南部にあるバンテマ地区には軍用基地があり、兵士達が訓練中の休日に、暇を持てあまして石ころで遊んでいたところから生まれた遊びで、テンポよく、軍隊行進のように常に一定のリズムを刻まれるような。「アクラクロ（Akrakro）」は、プランテン（芋のような味の甘くない料理用バナナ）をマッシュして油で揚げた丸いスナックで（日本のコロッケに似ている）。由来を聞いた後、いよいよゲーム開始。大人チームとキッズチーム、どっちもいい勝負。途中からサプライズゲストで有名人のデイビッド矢野さんが登場。「僕の母親はガーナ出身ですが、この遊びは初めて知りました」。

「セーセーセー」（左上）という、日本のゲーム「おせんべやけたかな」に似ている遊びで、ガーナのチュイ語での歌にも挑戦した。「24611」と呼ばれるゲーム（右上）は「アルプスいちまんじゃく」に似ており、初めて挑戦した大人も「昔やったことがあるような気がする」と懐かしんでいた。おやつタイムには、講師とウガンダ出身の留学生マトブさんが、頭にお盆を載せておやつを配った。バレンタインデーが近いので、ガーナチョコレートも用意。チョコの原材料であるカカオの実に実際に触れたり、カカオ農園の様子もスライドで見たりして、生産過程を想像しながら、タイトル通り甘く温かい冬の日となった。

★ゲームの遊び方の詳細はこちら

http://www.ajf.gr.jp/lang_ja/activities/akc20120205reportmore.html

第22回 タンザニアのアート・ティンガティンガ教室

日 時：2012年8月5日（日）

場 所：四谷ひろばB館3階多目的ホール（おもちゃ博物館内）



最初に東アフリカにあるタンザニアの紹介。現代アート技法「ティンガティンガ」は、スワヒリ語の昔話風に紹介した。サポーターが「スワヒリ語でぼくが『パウクワー（昔話を始めるよ）』と言ったら、『パカワー（はい）』と返事をしてね」と呼びかけると、キッズ達は元気に応えてくれる。

ティンガティンガが創設者の名前に由来することを知ったキッズ達は、お手本を見ながら各々が個性的な色塗りを開始。細いハケを使って修正液を散らすことで、動物の首～背中あたりにグラデーションを入れる高度な技も、初めてなのにキッズ達は上手に描いていた。



色塗りが一通り終わり、休憩。アフリカ各国の売り子風に、お菓子を盛ったざるを頭にのせたサポーターが登場。キッズは、「ナオンバ（お菓子ちょうだい）」「アサンテ（ありがとう）」と学んだスワヒリ語を上手に使い、タンザニアで人気のマンゴージュース、デーツ（なつめやしの実）、カシャタ（ナッツの雷おこし）を嬉しそうに受け取っていた。

【スタッフの裏話】今回はサポーター計10人。準備の時から狭いAJF事務所に大所帯。当日準備・買い出しから後片付けまで、荷物を詰んだ特大スーツケースを、韓国からの留学生で短期インターン生のキム君が、エレベーターのない駅中も運んでくれた。写真もすべてキム君撮影、ありがとう名カメラマン！

【サポーターの感想】印象的だったのは、大人顔負けのティンガティンガを描いていた女の子。教室の終了間際には子ども達の多くは床に寝そべったり、鬼ごっこをしていたり、別の遊びを見つけていました。その子は最後まで集中して絵を描いていました。とても丁寧な塗り方で、一緒に来ていたお母さんの作品と見分けがつかないくらいでした。「上手だね」と声をかけたときの照れた笑顔がとても印象に残りました。

第23回 AKC 初めての泊まり会～キッズクラブのお友だちと「おやすみ」～

日 時：2012年8月25、26日（土、日）

場 所：奥多摩 川井キャンプ場（新宿駅集合・電車で1時間半）

参加者：14人（4家族＝大人4人・キッズ5人、スタッフ5人）

当日のしおり：http://www.ajf.gr.jp/lang_ja/activities/AKC-pajama-party.pdf

詳細報告書：http://www.ajf.gr.jp/lang_ja/activities/kids_pic/20120827report-webver.pdf



キッズ向けイベントは1年に3回だけで、一度きりの出会いで終わってしまいがち、参加者が埼玉や千葉など他県から来ており普段は会えないなどの課題があった。そこで、12年度は以前から要望の高かった宿泊企画を実現し、「同じ釜の飯を食い、寝る前に語り、生活体験を共にする」ことで仲を深めることに。

当日は天気もよく、宿泊したログハウスのロフトは秘密基地のようで、冷たく気持ち良い川の水に、キッズも大人も大はしゃぎ。BBQでセネガルの「ヤッサ・ギナル（玉ねぎベースの鶏肉ソース）」やガーナの「チチンガ（ピーナツパウダーがけ串焼き肉）」を調理した。マスのつかみとりも体験し、すぐに何匹もとる子や、ぬるぬるした触感を嫌がる子もいたが、最後には全員で協力して1人1匹ずつ捕まえることができた。年上の子は初めての魚さばきを体験。最初は抵抗していたものの、お母さんの「生きるには人間が動物から命をもらっているということ」との教えを聞き、最後にはさばいたマスを洗い、中に塩をふって、焼くところまで自分でできるように。自分で調理した魚は普段より一段と美味しい！



夜はログハウスの外で「キャンドル・ナイト」。タンザニアのザンバル諸島に伝わる昔話「心臓とひげ」などを読み聞かせした。同時に夏休みの思い出などを発表しあい、夕刻の語らいはアフリカの国の村にいるかのような気分させてくれたとお母さんの感想もあった。

2日目朝はレンズ豆を使ったセネガル料理「ビーンズ・サンド」を、火起こしの煙が目に染み苦労しながらも調理した。朝食後の小さな木の切り株を用いたクラフト体験では、8月のイベントで体験したタンザニアの現代アート「ティンガティンガ」を描く子や、枝を切り組み合わせ「シュシュ・ストッパー」（髪ゴムをかけておくホルダー）を作る女の子、カラフルな駒を夏休みの自由研究として作る子もいた。

最後はキャンプ場主催のザリガニ釣り大会に参加。下見で施設職員の方から「最近雨が降っていなかったから、池の水が干上がって中止の可能性もある」と聞いていたが、当日から数日前に「恵みの雨」が降り、水が十分あったため、ザリガニは10分に1匹は釣れるというほど“大漁”。最終的にキッズ3人が各々3匹つりあげ、じゃんけんの結果年少の男の子2人が優勝！景品の大きな水鉄砲をゲット。全員が後ろ髪を引かれる思いでキャンプ場を後にし、「次もここにしよう」「キッズにも役割を担ってもらおう」と早くも来年のことに胸をふくらませていた。

第 24 回 ～寒さなんか吹き飛ばせ！アフリカ風日本の遊びと西アフリカ大ビンゴ大会

(拓殖大学アフリカ研究愛好会企画)

日 時：2012 年 12 月 9 日 (日)

場 所：戸塚地域センター7階 多目的ホール

西アフリカ風のゲームで体を動かしたり、大ビンゴ大会で頭を使ったりしながら、冬の寒さを乗り越えよう！という趣旨で、拓殖大学アフリカ研究愛好会（アフ研）のメンバーが企画・運営。2012 年 2 月にはガーナの遊びを体験した経緯を踏まえ、今回はキッズクラブ運営メンバーでセネガル出身者のいる家族のお母さんから、アフ研にセネガルの遊びを紹介するなどの協力があり、企画が実現した。



ビンゴは、西アフリカにある果物を写真で当てるクイズや、定番の国旗クイズなど様々で、正解者からお菓子の詰め合わせセットがプレゼントされた。キッズクラブには、お父さんが西アフリカの国出身という家庭の参加者が多く、すでに知っていることもあり、少し簡単すぎたというクイズもあった。

★拓殖大学アフリカ研究愛好会（アフ研）について

2004 年に設立された学生団体。近年は毎年度第 2 回イベントを担当し、企画・運営に携わる。企画した以外のイベントでも、サポーターとしてキッズクラブに協力している。

▼アフ研が企画したイベント

2011 年 11 月 23 日 アフリカ 1 周！？クイズに答えてアフリカを旅しちゃおう！？

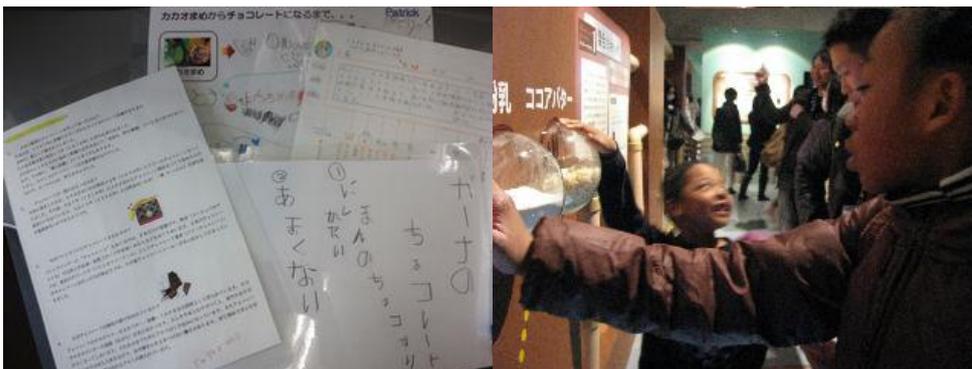
2010 年 11 月 21 日 「サッカー・ワールドカップが開かれた国、南アフリカってどんな国？」

第24回 上野でちょこっとバレンタイン～チョコレート博士になろう～

日 時：2012年2月23日(土)

場 所：国立科学博物館（上野）、AJF 事務所

2月のバレンタインデー・シーズンに合わせて、国立科学博物館（上野）で開催されていたチョコレート展に、カカオ生産世界一位を争うコートジボワールやガーナ出身の人達と参加した。



今回は、展覧会前の「宿題」をキッズにお願いした。テーマは「チョコはどういうふうになられているか」想像したイメージ図や、チョコについて調べたことをなんでもよいから紙にまとめてくること。ガーナ出身のお父さんに聞いたキッズは、ガーナのチョコレートは「日本のよりかたい、あまくない」との感想。

展覧会ではカカオマスからココアバターを絞る場面が、映像とブッシュボタンを押すと表示される体験コーナーもあり、ガーナやコートジボワール出身のお兄さん達の説明を聞きながら見て回ることができた。お母さんもとても熱心にメモをとりながら、チョコレートの歴史について勉強していた。



チョコレート展のあとは、AJF 事務所で、濃度 99%のチョコレートなどお菓子を食べながら講師のプレゼンやクイズ大会を行った。チョコが苦手なキッズ用には、BODY SHOP で購入したチョコレート・ハンドソープを使い、アフリカ各国でみられる食事前の「ボールで手洗い」体験を準備。最初抵抗があったキッズも、洗った後ほんのり手に残るチョコの香りに感動。講師プレゼンでは、ガーナやコートジボワール出身の講師らが、故郷ではチョコは作るけれど自分達では食べず他国に輸出していることや、バレンタインは日本程盛り上がらないというお話にキッズ達は驚いていた。

b) 在日アフリカ人家族の生活を考える会

「在日アフリカ人家族の生活を考える会」は、「子供とアフリカ」を対象とするアフリカンキッズクラブから派生した、日本でアフリカにルーツを持つ家族にフォーカスした取り組み。アフリカと日本などにルーツを持つ子供たちの日本やアフリカでの子育てをどうすれば良いか、子供の背景にある在日アフリカ人のお父さんお母さん、日本人のお父さんお母さんは日々どのようなことを抱えているのか、アフリカンキッズクラブの大人版として、取り巻く問題にポジティブに取り組み社会に発信している。

1	日本に嫁いで 9 年ザンビアと日本の子育て奮闘記	2007. 6
2	セネガル人お父さんから聞く、日本の子育て	2007. 11
3	セネガル子育てレポート	2009. 7
4	南アと日本、生活と学校を体験する	2010. 7
5	在日アフリカ人コミュニティーへの HIV/AIDS 予防啓発活動の取り組み	2010. 9
6	結婚、移住してガーナを生きる日本の女性たち	2010. 9
7	アフリカ系・外国系家族のリスクマネジメント座談会 ～大震災を経験して～	2011. 7
8	新・在留管理制度がはじまるとどうなるの？～弁護士との相談会～	2012. 7
9	クリスマス・クッキングパーティー ～AKC 初？キッズが料理にチャレンジ！～	2012. 12

第7回 アフリカ系・外国系家族のリスクマネジメント座談会 ～大震災を経験して～

日 時：2011年7月2日（土）

会 場：早稲田大学 早稲田キャンパス 8号館

東日本大震災やその後の原発放射線問題は、日本に住み基盤を持つアフリカ系・外国系家族へどう影響したのか。大使館や関連機関の対応はどうだったのか。どのような支援がされ、今後のライフプランはどうしたらよいか、情報や体験談を共有する座談会を開催した。

【アフリカ日本協議会・会報『アフリカ NOW』No. 92（2011年発行）特集記事に掲載】

http://www.ajf.gr.jp/lang_ja/africa-now/2011.html

（以下、記事より一部抜粋）



ガーナ出身の夫と子ども2人の家族

知っている範囲の日本に住んでいる外国人は、避難できる人はとりあえず避難する、特に単身者や子どもがいない外国籍だけの夫婦はほとんどが避難した。就学している子どもがいる人は、住んでいる場所から避難しなかった／避難することができなかった。いくつもの国の在日大使館が原発事故の直後から日本に滞在する自国民に対して、自国に戻れる人はできるだけ戻るように呼びかけていた。

私の家族は、子どもの学校や勤務の関係で容易に避難できなかった。子どもがいる家族は、居住地から避難することが難しい。原発事故が起きた直後は私も、子どもの生活環境が破壊されてしまうかもしれない、実際現実的な選択ではなかった。子どもをガーナの学校に転校させることができないかという考えが

よぎり、ガーナの入国ビザを取るために子ども予防接種を行うなど、最悪の事態に備えた準備はしていた。しかし家族4人全員でガーナまで行ったら100万円以上のお金がかかり、1カ月くらい後になって日本に戻ってきたとすると、逃げてよかったのかと考えてしまう。子どもが通う学校では、放射能のことがあまり話題にならない、話をしても子どもたちに不安を与えるだけだから、放射能について話すことを避けていた。ガーナなど海外の知人からは、「まだ日本にいるの」「早くこちらに来なさい」と言われることが多かった。日本が安全だとも言い切れない状況のなかでそう言われると、板挟みになっているような気持ちになり、そのことでストレスを感じてしまうこともあった。



セネガル出身の夫と子ども1人の家庭

夫は、地震よりも原発事故と放射能汚染に対して危機感を抱いていた。主要な情報源であるフランスやセネガルのオンラインメディアでも原発事故のことは大ニュースになっていた。震災当日から、セネガル特有の宗派と出身地ごとのコミュニティーであるダーラ(Daara)の力が発揮されたのか、在日セネガル人間で安否の確認や現状の共有、今後の連絡手段など早期に確認し合っていた。コミュニティーからの情報源が生命線となっているが、コミュニティーにアクセスできない人もおり、孤立している可能性がある。

原発が爆発した翌日、夫が「(一人でも)セネガルに帰る」と言い出した。私は「帰ってもいいよ」と言いつつも「これから準備をしてもビザの問題やら何やらで、実際にセネガルに行けるようになるまでには何日もかかる。私もあなたも仕事があるし、子どもの学校はどうするの」と聞き返した。その時ちょうどセネガルに里帰りする人が多い時期で、夫の知人のセネガル人は実際に何人も帰っていた。私の職場の外国人も帰国していた。夫は、自分が取り残されたと感じたのか、以前は将来設計について積極的に語ったことがなかったけれど、「自分達の将来はどうなる」と言い始めた。それでも1週間くらいすると少しずつ落ち着きを取り戻してきた。私の中では、家族でセネガルに避難するという選択肢はなかった。夫がセネガルに戻ることにしても、私は日本にいるしかないと考えていた。セネガルに避難しても、生活していただくだけの社会的・経済的基盤がない。日本に戻ってきても、最初から仕事などの生活基盤を立て直すなくてはならないし、そのことで混乱をきたしてしまう。それでも、各々の立場や家族構成によって、選択肢は変わってくると思う。「避難所では日本人以外の人がいなかった」という発言を受けて)日本に住む外国人の家族は、その土地に何世代にも渡って生活しているわけではなく、わざわざ避難所に行って支援を受けて、この場で生活しようという強い思い入れがあまり起きてこないと思う。国際結婚をしていると、現住居以外にも、常に複数の居住の選択肢を持っている。日本人の私でも、出身地に戻る以外に、夫の出身国であるセネガルに行く選択肢もある。夫であれば、日本国内のセネガル人の知人を頼ってしばらくの間は同居させてもらうということは、ごく普通のこと。

第8回 新・在留管理制度がはじまるとどうなるの？～弁護士との相談会～

日 時：2012年7月14日（土）

会 場：早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター会議室

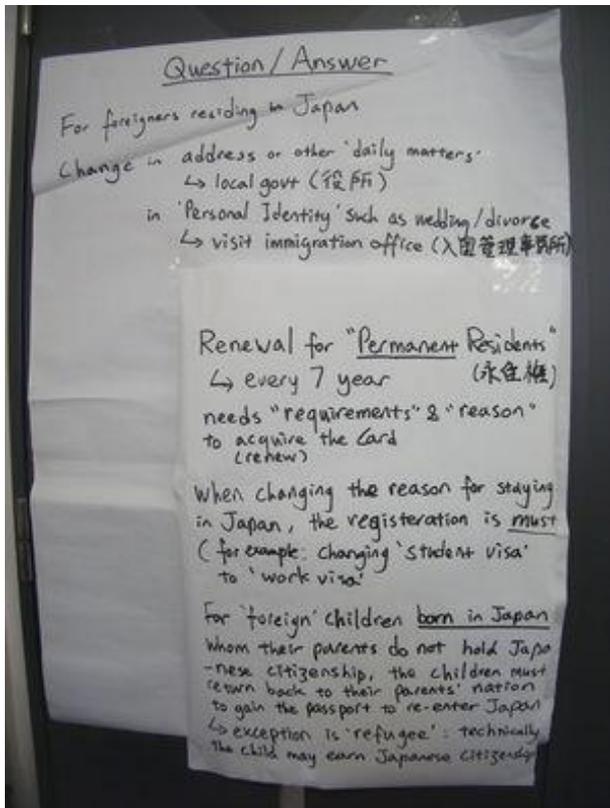
7月9日の新・在留管理制度開始に合わせ、在日外国人をとりまく問題や事件に取り組んできた枝川弁護士（AJF 会員）を講師に迎え、特に在日アフリカ出身者を含む家庭に関する事項を中心に相談会を行った。

▼在留カード表

▼裏（いずれも法務省 HP より）



中長期滞在者だけを対象としており、（1）外国人登録証の廃止&在留カードの導入（2）在留資格が最大3→5年へ（3）みなし再入国制度（1年間）の導入が主な変更点となっている。以前は外国から日本に入ってくる時と出ていく時、「最初の点」と「最後の点」だけを管理するのが入国管理局の役割であり、点と点をつなぐ線（日常生活）の管理や情報提供は自治体が担当していたが、新制度では、住所変更等の例外を除いて、「線」の部分の管理も入管が担当するようになったという。



「日本に住む外国籍の人たちは今の在留期間が切れる前までに、外登証（外国人登録証）から在留カードに切り替えなくてはなりません」。講師の一言に、「忘れないうちに早く地方入管に行って手続きしなきゃ」と参加者同士でも焦りの声が上がった。在留カードは、いつも持って歩かないと、「常時携帯義務」違反で罰金をとられてしまうこともあり、在留期間が切れるまでは、カードの代わりになる外登証を持ち歩かなくてはならない。「ちょっとのお出かけでも油断できないね」と苦笑い。

難しい単語が出てきた時は、同じく在留カードを持ち、手続きの複雑さなどを共有する留学生サポーターが速記で英訳した。座談会は、デーツ（なつめやし）、チャパティ（ナンやトルティーヤのような薄いパン）、マンダジ（揚げパン）などアフリカのおやつをつまみながら、和やかに終わり、参加者同士や講師とのネットワーキングにも繋がった。

第9回 クリスマス・クッキングパーティー ～AKC 初？キッズが料理にチャレンジ！～

日 時：2012年12月22日(土)

場 所：榎町地域センター3階調理室

2006年「みんなで楽しむアフリカ・ガーナのわらべ歌」以来、6年ぶりのクリスマス会。心も体も成長したキッズ達が料理に挑戦した。



メニューは、セネガルの Fataya (ファタヤ。揚げ餃子のようなスナック)、西アフリカ各国で人気のチキンレッグの玉ねぎソース仕上げ、タンザニアの諸島であるザンジバルのココナッツであえたプランテーション・サラダ (ポテトサラダに似ている)、デコレーションケーキ。小さい子はレタスを洗い、大きい子は Fataya を餃子と同じ方法で具を皮に包む。アボカドの実をくりぬいたりココナッツの実を割ったりする作業は、お母さんやサポーターのお兄さんの手を借りながら、初挑戦。クッキングの後には、お茶をしながら今後のキッズクラブイベントについてミーティング。学生団体「日本ソマリア青年機構」のメンバーが、ソマリア文化を紹介する企画を提案した。

4) その他

a) グローバル・フェスタ 2012 での活動報告ワークショップ

日時：10月6日(土) 場所：千代田区日比谷公園

毎年日比谷公園で開催される外務省主催のグローバル・フェスタ。キッズクラブ初のお泊まり会を振り返り、会を企画したインターン生による報告やクイズを行った。

b) AJF2012年活動報告・交流パーティー「がんばろう AJF!がんばろう TICAD V!」への参加

日時：2012年12月12日(水) 場所：ナイジェリア大使館(六本木)

2012年のAJFの活動を振り返る年末交流会に、キッズクラブとして初めて参加した。AJFの他活動に関わったり会員の方々と交流したりする貴重な機会となり、父親がナイジェリア人のキッズの家族が大使館職員と情報交換をする場面もあった。キッズクラブの活動をAJF全体に知ってもらった機会となった。



5. 2013年度の方向性

小学校低学年から高学年まで年齢の幅が広がってきた現状がある。高学年にも対応する、キッズ主体の企画を実施したい。社会に対してキッズの存在アピールや、アフリカの負のイメージ払拭を目的とする。具体的には以下の企画が検討されている。

- ・ 第2回お泊まり会（2013年8月、奥多摩・川井キャンプ場）
- ・ 介護施設訪問（アフ研メンバー持ち込み企画）
- ・ 拓殖大学文化祭のアフ研企画でキッズコーナーの用意、模擬店へのキッズ参加
- ・ 子供主体企画、併せて事前打ち合わせ（サポーターの送迎付で、保護者の負担を減らす）
- ・ 在日アフリカンと共に日常体験（第24回チョコレート企画での手洗い体験が好評だったことを踏まえて）
- ・ 大人向け企画（ハーグ条約、国際結婚の子供を巡る法律についてなど）

【まとめにかえて：アフリカンキッズクラブの今後の展望】

単発ではなく継続的に活動に関わり、キッズとの仲や保護者との信頼関係を築けるサポーターが増えれば、毎年企画も安定するのではと思う。また、多文化共生や教育に関心があったり、研究テーマにしていたりするサポーターは継続的にコミットしてくれる傾向にあり、サポーター募集時のアプローチをかける必要がある。個人的には、キッズたちが今後企画を実行し、自分自身や年少の子の「アフリカ理解」について、考えていく機会をクラブ内で築いていきたいと思う。

（文責：和田）

編集

AJF インターン 和田奈月

拓殖大学アフリカ研究愛好会 北嶋瑠子

特定非営利活動法人アフリカ日本協議会（AJF）

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル3F

TEL 03-3834-6902 / FAX 03-3834-6903

ホームページ：http://www.ajf.gr.jp

e-mail：info@ajf.gr.jp

2013年4月30日発行